

令和6年度 三重大学教育学部附属幼稚園 教育ビジョン

附属学校園の共通教育目標

主体的、創造的に
生き抜く心豊かな
子どもを育てる

学校教育目標

心身ともに健康で 心豊かに
たくましく生きる子どもの育成

附属学校園のめざす子ども像

＊正しいことや、美しいことを
求め、粘り強く行動する子ども
＊お互いを大事にし、高め合お
うとする子ども

めざす幼稚園像

- ・ 健康な心と体が育つ幼稚園
- ・ 安全で安心して生活できる幼稚園
- ・ 夢中になって遊び込める幼稚園
- ・ 豊かな自然環境の中で四季を感じられる幼稚園
- ・ 家庭、地域に信頼され愛される幼稚園

めざす子ども像

明るく健康で
豊かな心情をもち
友達と考え合って
のびのびと活動する 子ども



めざす教師像

- ・ 保育に対する情熱と意欲をもった教師
- ・ 保育に対する向上心と研究心を常にもっている教師
- ・ 自身の教育（保育）観、仕事に対する自信と柔軟性を持ち、同僚を尊重し、協力しながら仕事を進めていこうとする教師
- ・ 温かく子どもを見守り、子どもの可能性を信じ、伸ばそうと努力する教師
- ・ 保護者と共に子どもの育ちを支えていこうとする教師

めざす姿の実現に向けて

ひとひといの力を発揮してよい良い幼稚園を創ろう！

「遊びこむ」子どもの育成

- ＊ 基本的な生活習慣・生活態度
- ＊ 身体感覚の育成
- ＊ 意欲・好奇心・探究心・集中して取り組む力の育成

ひととの関わりの中で心豊かに育つ子どもの育成

- ＊ 人への親しみ、信頼感の育成
- ＊ コミュニケーション能力の育成
- ＊ 異年齢の交流

保育環境の充実

- ＊ 「やってみたい」と思う環境構成
- ＊ 発達・時期に応じた環境構成
- ＊ 安全で安心な環境づくり

教師の資質向上

- ＊ 幼児理解・発達を意識した援助
- ＊ 記録と発信の工夫
- ＊ 同僚性の向上

保育の充実

研究の推進

【研究テーマ】「やってみたい」がにつながる保育
～遊びこむ姿をめざして～

- ＊ 園内研修の充実と推進
- ＊ 各自がテーマをもち、探究する
- ＊ 話し合い、まとめる力、プレゼン力の向上
- ＊ 教材研究、自己研鑽

協働した 園運営

園務分掌

＊ 性・振り返り
＊ 見通しと計画

連携

＊ 保護者
＊ 大学
＊ 附属学校

発信

＊ 通信
＊ ホームページ等
＊ 園を知ってもらう取組

預かり保育 (子育て支援)

＊ 子育て支援としての役割を推進
＊ コア・フの会の充実
＊ 情報共有
＊ 保育内容の精選と充実

特別支援

＊ 津市教育委員会（附属内）支援
＊ 委員会との連携・情報共有
＊ 小学校との連携
＊ 情報共有と記録

保育の充実

重点目標	下位項目	具体的な手立て・成果と課題
「遊びこむ」子どもの育成	* 基本的な生活習慣・生活態度 * 身体感覚の育成 * 意欲・好奇心・探究心・集中して取り組む力の育成	・ ちょうちょの門や昇降口での挨拶を教職員から積極的に行う。子ども一人一人の様子を見ながら、前日から今日に気持ちをつなげられるような適切な声掛けや保護者への声掛けを行う。2学期の後半には子どもや保護者から挨拶をしてくれるようになった。 ・ 子ども一人一人の様子に応じて見通しをもち、丁寧な指導を重ねることにより、年度終わりに向かって生活習慣が身についた子が多かった。 ・ 保育環境の充実ともかわり、「やってみたい」という意欲をもち遊びに向かうことが出来た。四季折々の自然に触れ、好奇心を膨らませて自ら環境に関わって遊ぶ姿が多く見られた。 ・ 興味をもったことに繰り返し取り組み、じっくりとあそびを深めていくことについては個人差が大きい。それぞれの興味関心を把握し、探究していけるようなかかわりについて今後さらにかかわりを検討していく。
ひととの関わりの中で心豊かに育つ子どもの育成	* 人への親しみ、信頼感の育成 * コミュニケーション能力の育成 * 異年齢の交流	・ 3歳児は特に入園当初から担任との信頼関係を築けるように配慮してきた。今年度は特に担任以外の教員との関わりも多く、全職員が子どもたちに向き合い援助していく体制を作った。 ・ 生活の中で必要な言葉「入れて」「かして」「ありがとう」「ごめんなさい」などは折に触れ、必要な場面で使えるよう保育者がモデルになったり、伝えたりするようにした。またできるだけ子どもの気持ちを丁寧に聞き取るようにしたり、思ったことをクラスの中で話したりする機会を作るとともに友達の話聞けるような態度も身につくようにかかわってきた。思ったことを話すこと、友達の話聞くことは年齢や発達によりまだまだ難しい子もいる。先の見通しを保育の計画性をもちながら指導を重ねていくことを次年度も引き続き行っていく。 ・ 異年齢の交流は園庭で自由に遊ぶ中で自然に関わりが生まれて一緒に遊ぶ姿も見られた。またどの保育室で遊んでも良い環境は、子どもたちが安心できる空間を探し、自分の居場所としてじっくりと遊べることもつながるとともに学年をまたいで遊ぶこともつながった。 ・ 次第に自分の所属クラスに意識が向くようになり、クラスの友だちと遊ぶことが増えたことは自分のクラスへの帰属意識と親しさ、安心感が生まれたことによるものだろう。 ・ 年間を通して全体活動の場においても異年齢の交流が生まれるように活動の工夫を行ってきた。3学期には年中児と年長児のペアで一緒にお弁当を食べたり遊んだりする活動も計画的に保育の中に取り入れた。
保育環境の充実	* 「やってみたい」という環境構成 * 発達・時期に応じた環境構成 * 安全で安心な環境づくり	・ 各担任が子どもの興味関心、実態に応じて、またその時々を経験させたいことに沿って保育環境を構成した。実践のなかで実際に子どもたちが心を動かし、遊びに向かっていく姿を多く見ることができた。 ・ 各保育者による環境の構成について互いに情報交換したり環境を見合い話し合ったりする時間がなかなか取れなかった。また構成した環境が子どもにとって本当に適切（適当）なものであったのか、遊びの内容などからの振り返りを共有することが難しかったことが課題である。 ・ 安心で安全な環境づくりについては、毎月の安全点検、業者による点検等も行っている。施設、遊具の老朽化もあり、適宜修理も行いながら、進めている。
教師の資質向上	* 幼児理解・発達を意識した援助 * 記録と発信の工夫 * 同僚性の向上	・ 「マンスリーチェックシート」「自己評価票」により全職員が自分自身が保育をする上で大切にしたいことを振り返る機会を設けたことは初心を忘れずに保育することに役立っている。 ・ クラスだよりや昇降口での掲示（ポートフォリオ）は担任により個人差はあるが定期的に発信することができた。 ・ 担任同士の情報共有は密に行っているが非常勤との関わりが減少してしまう状況にある。

研究の推進

【研究テーマ】「やってみたい」がつながる保育 ～遊びこむ姿をめざして～

重点目標	具体的な手立て・成果と課題
園内研修の充実と推進	・園内研修では「子どもが遊びこんでいる」ととらえた毎月の事例を共有し、それについて各自のとらえ方や考え等を協議した。事例の書き方を、写真と短文（概要）をパワーポイント1枚で表現する形にし、事例を書く負担を軽減するようにした。このことによって事例が出しやすくなり、協議では内容を補いながら話し合うことができた。 ・年間で数回でも良いので読み手にわかりやすくきちんとした事例を書くことは保育者自身の力をつけるためにも必要だと思われる。 ・今年度は研究テーマ『「やってみたい」がつながる保育』の1年次である。そのため比較的余裕をもって園内研修に臨み、じっくりと議論することもできた。次年度はまとめの年になるので今年度話し合ったことを整理し、成果を出していくようにしたい。 ・11月9日の保育を語る会（公開研究会）では県内外より72名の参加者があり、保育参観及び語る会、ミニ講演会を行った。午後からの語る会においては、三つの分科会に分かれそれぞれのテーマで参加者と語り合った。各分科会で教育学部の先生にアドバイザーとして参加していただき、話し合いの柱を示していただいたり、次の話し合いに向けての方向付けをしていただいたり、助言をしていただいたりした。おかげで非常に有意義な話し合いの場となった。 ・5月24日、29日、31日に相互参観を行い、津市内幼児教育関係者、附属学校の教員が参観、午後から協議会を行った。 ・附属小学校との共同研究の一環として東京大学の浅井幸子先生を招聘しての研究会を年間3回行った。（7月8日、1月27日、2月21日）保育参観、授業参観を行い、午後から幼小合同で協議会を行った。1月27日には附小の長井教諭が年長児に向けて保育（体を動かす遊び）を行い、それについて幼小合同での協議を行った。また2月21日には「リズム遊び」という共通の活動を年長児と1年生（幼小）それぞれで行い、その違いを捉えることを試み、これまでなかった取り組みであり、協議会も大変充実したものとなった。次年度以降も幼小の架け橋プログラムを意識しながら連携、接続の取組を進めていきたい。
各自がテーマをもち、探究する	・今年度は「やってみたい」をキーワードにしてそれぞれの保育者がテーマを決めて自分なりに考えを深めていった。研究が各保育者にとって自分事となり、一人一人が「やってみたい」に向き合うことができたように思う。 ・この取り組みは今後も続けていきたい。
話し合い、まとめる力、プレゼン力の向上	・上記の各自がテーマをもち、探究する取り組みにおいて夏季休業中を利用してひとりひとり自身のテーマについてのプレゼンを行った。またプレゼン後に協議会を行い、活発な意見交換ができた。プレゼン資料を作って発表するという機会を作ることで自身の考えをまとめる、事例を深くとらえて考えを作る、わかりやすく資料を作り、説明するといった力が必要となり、そこについても力をつける機会となった。 ・協議会で出た意見を活かし、さらに個人が探究を進めていくことが大切である。またプレゼンについて年度末にもう一度あれば一人一人のさらなる資質向上につながるのではないかと。
教材研究、自己研鑽	・「やってみたい」をテーマにすることにより教員一人一人がそれに向かって教材研究を進めることができ、教員の意識のもち方の変化が感じられた。子どもが「やってみたい」と思うことはどんなことか、その気持ちに至るためにはどのような環境、教師の援助が必要かを深く考えることができたのではないかと。 ・日々の保育に関する教材研究は各々で行うことが多かった。園としての一環したねらいや発達を見通したうえでの保育、行事などの在り方も含め、意見や情報交換、保育の具体を念頭に置いた教員間での教材研究が必要であると考え。

協働した園運営

項目	内容	具体的な手立て・成果と課題
園務分掌	* 確実な遂行 * 見通しと計画性・振り返り	・教員一人がいくつもの園務分掌を担当しているが、一人一人が自分自身の分掌、役割を理解して確実に遂行することができていた。 ・年度が進むにつれて計画を周知することが遅くなり、ぎりぎりになってしまうことがあった。基本的には行事の1か月前には提案することになっていたが、遅れがちになってしまうことも多かった。それに伴って全体的な動き、準備が遅くなるため、計画性をもって提案できるように見直していく。
連携	* 附属学校 * 大学 * 保護者 * 地域	・附属学校園間の連携、大学との連携は企画経営室（大学教員が構成メンバー）による定期的な会議、ミーティングがあったために相互の情報がスムーズに共有された。 ・小学校、中学校、特別支援学校との連携活動は、教員同士が連絡を密にとることでスムーズに行うことができ、中期目標を達成することができた。（別紙参照） ・大学との連携活動については例年続けているものにとどまり、新規の取組がなかったことが課題である。 ・保護者（育友会）と連携を取りながら行事や委員会を進めていくことができた。地域と連携した活動がなかなかできないことが例年の課題である。
発信	* 通信 * ホームページ等で幅広く園を知ってもらう取組	・保護者に向けては園だより、クラスだより、ほけんだよりを定期的に発信することができた。 ・各クラスの昇降口に遊びの様子や担任からのコメントなどをタイムリーに発信することができ、保護者も興味をもって見入る姿が見られた。 ・ホームページを使って外部への発信については、入園募集等のお知らせにとどまり、園や遊びの様子を知らせることができなかった。次年度は改善していきたい。 ・園を知ってもらう取組としてインスタグラムを始めた。後期中で機器の不具合により発信ができなくなってしまった。不具合の解消を試み、継続して発信をしていきたい。
預かり保育 （子育て支援）	* 子育て支援としての役割を推進 * コアラの会の充実 * 情報の共有 * 保育内容の精選と充実	・預かり保育開始して2年目となり、ブラッシュアップしながら進めてきた。今後は内容面についての課題を明確にし、子どもにとってより良い預かり保育、子どもの一日全体を見通した生活リズムを作れるように配慮した預かり保育を進めていきたい。 ・未就園児の会（コアラの会）は年度当初25組の参加申し込みがあり、年間15回の計画で進めた。後期からは幼児教育コースの2年生が授業の一環として参加し、活動の企画運営に携わった。また保護者ボランティアも9名参加し、会の中では子育てや幼稚園に対する質問、悩み等を気軽に話せる場となっていた。回を追うごとに参加者同士が顔見知りになり、子どもはもちろん保護者も気軽に話ができる雰囲気ができ、充実した会となった。欠席が多く次第に足が遠のく参加者も何組もあった。 ・参加した保護者がゆっくりおしゃべりできる機会や子育ての役に立つちょっとしたことを得られる場を作りたいと思っていたが実現は難しかった。 ・年度当初に参加者を固定するスタイルだが、そうでない形で園に未就園児が遊びに来ることも今後検討していきたい。
特別支援	* 津市教育委員会・(附属学校内)支援委員会との連携、情報共有 * 小学校との連携 * 情報共有と記録	・企画経営室の大原先生に週3回程度来園、幼児の様子を観察してもらい助言をもらう。支援の必要な子に対するかかわり方について教員への助言、時には保護者との面談も行う。 ・園内で月1度のペースで「発達支援ミーティング」を行い、大原先生、担任、管理職が参加し、主に支援の必要な子についての情報共有、理解を行うようにしており、これについては成果をあげている。次年度、可能ならば非常勤の先生も参加できる機会を設け理解を深めていくようにしたい。 ・四附属学校園の管理職、特別支援コーディネーター、企画経営室等のメンバーで構成される就学指導委員会では学校園間で園児児童生徒の様子を共有し、段差のないスムーズな連携ができるようにしている。 ・特に幼稚園から小学校の連絡進学、就学については津市教育委員会や附属学校園間との連携を密にして、個別に保護者とともに就学について話し合う機会を作った。また保護者と小学校の様子を見学に行く、小学校の管理職やコーディネーターの先生と話ができる機会を設ける等、保護者も子どもも安心して就学を考えられるようにしていった。

連携活動

	小学校	中学校	特別支援学校	大学
1	5月 年長児 運動会の練習見学	5月～6月 全園児 4回 中学校3年生との交流	7月 保護者（園児） 野菜販売	家政教育講座 学生参観、行事の補助
2	5月 教員 幼稚園相互参観と協議	9月 全園児 中学校体育祭の見学	10月 年長児 特別支援学校へ 印刷の様子を見せてもらう	英語教育講座 中川先生 年長児「えいごで遊ぼう」
3	7月 教員 生活科の授業参観	10月～11月 全園児 4回 3年生との交流活動 ②	12月 全園児 いちご狩り	理科教育講座 伊藤先生 星を見る会 開催
4	8月 教員 小 夏季研修会参加		12月 全園児 クリスマス関係	幼児教育講座 吉田先生 学生 人形劇観劇 2回（全園児）
5	10月 年長児 1年生との交流活動 （運動会のダンス披露、玉入れをする）		3月 年長児 卒園記念のいちご狩り	幼児教育講座 富田先生 学生 「よるのようちえん」コーナー企画
6	11月 全園児 園外保育（散歩）で附属小学校校庭で遊ぶ		* 育友会主催Tシャツ制作	保健体育講座 後藤先生 年長組 親子活動
7	11月 教員 生活科の授業参観			幼児教育講座 水津先生 保育を語る会 ミニ講演会
8	11月 教員 幼稚園の研修会に参加			幼児教育講座 守田先生 加納先生 大原先生 保育を語る会分科会助言者
9	11月 教員 小学校の研究会に参加			保健体育講座 岡野先生加納先生 年中組 親子活動
10	12月 年長児 1年生来園 劇を見せる、歌を聞く、遊ぶ			国語教育講座 林先生 年長組 筆体験
11	2月 教員 生活科の授業参加、協議			幼児教育講座 富田先生 コアラの会
12	2月 年長児 1年生 小学校での交流活動			保護者向けコラム発信 1回
13	3月 年長児 5年生 小学校での交流活動			国語教育講座 松本先生 行事等での学生ボランティア
14				幼児教育講座 他 卒業論文等の研究協力